

FD 学外セミナー参加報告書

氏名： 鳩貝 耕一

所属/職名： 情報教育研究センター 教授

参加セミナー名： 立命館大学 第5回教学実践フォーラム「学びの場で活躍するピア・サポーター」

セミナー参加日時/場所：2015年1月14日（水）18：30～20：00 立命館大学衣笠キャンパス

■セミナー内容・所感・授業や本学への活用について

今回の教学実践フォーラムの副題は、「学生と教職員が協働してつくる、学びのコミュニティ」となっており、この4月に改組してできる本学教育学習支援センターのテーマとして大変参考となるものであった。

今回のフォーラムは、以下の二部構成となっていた。

● 「初年次教育で活躍するピア・サポーターたち」映像学部自治会オリター・ヘルパー団

映像学部では、映像作品の作成作業を伴う授業がいくつかあるそうだが、正課で作成法を教授していると映像作品を作成する時間がとれなくなる。そこで、正課外で自主制作等を行うことになる。これら正課、正課外それぞれに学生サポーターがいて、「ヘルパー」、「オリター」と呼んでいる。

今回紹介されたのは初年次教育支援についてであり、正課では「プロデュース基礎演習」の15コマ分の授業内容を含め、ヘルパー自身が企画・運営している。この授業により、初年次生は後々の専門教育における映像作品制作に必要な基礎知識を得ることができる。

正課外では、コマ撮り映像、すなわちストップモーション・アニメーションを作成する「デジ作」という企画をオリターが行っている。一回生の作品が実際に上映されたが、クリエイティブな面白い内容であった。これとは別に、サブゼミも行っており、映像作品のプロデュース能力の育成に力をいれている。

大事なことは、これら学生組織と学生自治会、学部、学生オフィス（職員）との確固たる連携支援体制がすでに構築されていることであり、毎年度、学部上級生の約一割が一回生の学習活動をフォローしていることである。本学にも、このような体制が築けるかどうか、今後の初年次教育のキーとなるような気がする。

● 「受講生目線で授業をつくる！エデュケーショナル・サポーター（ES）の活躍」教職課程「教職原論」「特別活動の研究」ES

こちらは、産業社会学部における教職課程の大講義をサポートするESの活動内容についての報告であった。

大講義では、学生相互の意見交流が難しく、受け身の学習になりがちである。そこで、毎授業、テーマを設定しコミュニケーション・ペーパー（CP）に各自の意見や質問等を記述してもらい、それをESが「講座通信」としてまとめ、受講生にフィードバックしている。

報告は、二人の女子学生ESと一人の男子学生ESがそれぞれ行った。いずれの学生も、下級生との交流だけでなく自身の成長にもつながったことを報告している。最後に報告した男子ESは、15コマもの授業を受け持っており、授業形態を分類した上で、その授業スタイルにおけるキーとなる活動と課題を挙げていて、参考となった。

一般的な課題は、「講座通信」をまとめて配布する活動がESのオーバーワークになりかねないことであり、担当教員から「注意をはらっている。」との報告があった。